

いる県は「畜産」に力強さがあり、全国的な畜産県である宮崎県や鹿児島県だけでなく長崎県や熊本県の肉用牛も、大分県を大きく上回る産出額となっています。

農業は他産業に比べて高齢化が進行しており、生産基盤の脆弱化等が顕在化し、熟練者の技術・技能の伝承も難しくなっていると言われていています。本県においても、多くの他産業と同様、労働力不足が深刻化しており、事業規模の拡大や新たな事業展開などの制約要因の一つとなっています。

農地集積と生産コストの削減 ～宇佐地区農業競争力 強化基盤整備～

758区画の農地を95区画に集約整備(うち大区画37区画)。併せて、地下かんがいシステムの導入による水管理の省力化により生産コストの削減を実現。



また、集落人口の減少によって、農山村の生産・生活基盤の維持管理が困難となっており、野生鳥獣による農作物等の被害や農地の荒廃等が、今後ますます、深刻化する恐れがあります。

さらに、TPP11や日EU・EPA協定、さらに日米貿易協定の発効など、新たな国際環境の下におかれています。

行政としての取り組み

県では農業を儲かる体質へと転換していくため、「全国に誇ることでできる中核的な経営体づくりに取り組む。そのために、就農準備段階から経営開始までを一貫して支援し、経営感覚と実践力をもった経営体へと、伴走型でその成長を後押しする」としています。

その具体的施策として、

- ①水田の畑地化や畑地の再編整備を進め、大規模な園芸団地を各地域に育成
- ②大規模畜舎の整備や繁殖雌牛肥育牛の増頭、枝肉重量・肉質向上を重視した肥育技術の強化
- ③労働力不足が顕在化する中、生産性を維持・向上させるためドローン等のスマート技術について、生産から加工・流通まで、幅広く導入の可能性や効果を検証し、現場実装を推進する

としています。

農業の価値の再確認を

県では、これまでの構造改革により、新規就農者の増加や参入企業の拡大、農林水産物の輸出額の増加など、着実に成果が得られているとしています。

確かに、大分県の「水田にこだわる」農業からの構造改革は急務だと思います。しかしながら、中山間地では農地集約しようにも限界があります。さらに、人口減少社会の中で担い手確保はこれまで以上に厳しくなりそうですから、農業系高校の復活も含めて抜本的に考えていくことが求められます。

ただ、私は今、一番必要なのは農業の社会的・経済的・文化的な価値の再確認なのではないかと思えてなりません。

今年度、県内の現場を見て回る中で、都会育ちの若者が「農業をしたい」と大分の地で就農学校で学び、頑張っている様子を目にしました。そういった農業に携わる方々が安定した収入を得ることができる社会でなければ、市場に安心して安全な農産物が流通しなくなってしまうのではないかと思います。

時間がかかるかもしれませんが、私たちは無関心ではいられない問題として、長い目で農業を見守っていく必要があると考えています。

今年度の農林水産委員会県内所管事務調査で回った企業や事業の中から御紹介したいものを文中に掲載しています。

ジビエのソーセージ・ハム加工 ～宇佐ジビエファクトリー～

有害鳥獣として狩猟された猪や鹿などをソーセージやハムに加工し販売。
一度食べたならやみつきに…。



原田たかし後援会への加入をお願いします

原田たかし後援会への加入をお願いしています。年会費は1家庭1,000円です。加入していただいた方へは、年4回発行しています「原田たかし会報」と県民クラブ会報「県民ひろば」をお送りいたします。御連絡をお待ちしております。

原田たかし後援会 ☎0977(25)0011

〒874-0838 別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所内

私が所属しています県民クラブもHPを開設していますので御覧下さい。

HPのアドレスが変わりました。

<http://www.oct-net.ne.jp/kenmin-club/>

大分県議会 県民クラブ

検索

